

# Interview

## 本で自分の中に根づいた 人生の無常と“龍馬イズム”

お笑い芸人(Aマツ)

加納 愛子 → [選書p27]



photography : Makoto Kubodera

すべて無になることもある。  
だから全力で夢に向かう

本はいつもキホン1冊、持ち歩いています。移動中とか時間があるときに読みますね。お笑いも映画も好きですけど、本がいちばん好きです。お笑いはやっぱり職業柄、フラットには見れなくて真剣に見入っちゃうけど、本はエッセイや小説を書く今も、一読者として楽しめます。

小学校のときから図書館に通ったりしていました。実家にも本は多く、親に「そんなことも知らないのか」とよくあおられて(笑)。知識欲みたいなものを「オラオラ」と刺激されて、自然と自分で本を「読みたい」となった感じです。

高校のとき、周りが「おもしろい」という伊坂幸太郎さんの小説に出合って、ホントにおもしろくて、小説を買うようになりました。高3のときには『ダ・ヴィンチ・コード』(文庫版)の上巻を丸々、本屋さんで立ち読みしました。高校生だからお金もないし、「最初がおもしろかったら中・下巻も買おう」ってページを開いたら、閉店時間になるまで読んじゃって。中・下巻は買いました。今、思うとあり得ないですね。

20代前半には歴史小説にハマりました。そこに



11月発売の最新エッセイ集  
『行儀は悪いが天気は良い』  
(新潮社) / 1,540円(税込)

描かれた生きざまみたいなものは、自分の中に入っていると思いますね。たとえば司馬遼太郎さんの『夏草の賦』の主人公、長曾我部元親とか。やっとならば統一した四国をすぐ秀吉に取られ、廃人みたいになっちゃう。栄華のはかなさや諸行無常っていうと、この人が浮かぶ感じがします。戦にいくら勝っても得たものを失う。そんな運命の生きざまを知っていることで、かえって開き直れて「夢を追いかけてよう」と思えます。

### おもしろいものを生むために 才能を結びつけるのも喜び

幕末のように革命が起きるとき、最後に坂本龍馬とか、歴史に名の残る人たちが幕府を終わらせた、みたいになっていますよね。でもその前にいろんな人が倒れていって、多くのアシスト(笑)がある。本で得たこんな考えも、「自分でゴールを決めなくても、回り回って役に立てればいいか」という気持ちのときに浮かびます。

だから誰かが作家を探してたら、紹介するようにはしています。自分の利益にはならないけど、才能ある人同士を引き合わせたいのは、絶対に自分の中の“龍馬イズム”ですね(笑)。薩摩と長州を結びつけ

る、みたいな。自分で何かおもしろいものを生み出すのも楽しいんですけど、人をつなげることでできるなら、っていう気持ちがありますね。

ネタ作りと読書って、ものすごく関係があります。エッセイや、セリフが好きで書かせてもらったりする脚本もそう。どれも要は言葉なので。最近チャレンジしている小説も、明らかに読書していないと書けなかったと思います。

本屋さんには、今もしょっちゅう行きますね。ジャケ買いみたいなことをしたり。私は迷ったら買っちゃいます。フラッと本屋さんに行って、誰もおすすめしていない、平置きされている中からつかんだ1冊がおもしろかったら、「私が見つけた!」みたいになって、自己肯定感がすごい上がります。ふだん本を読まない、買わない人は、「すごいおもしろい!」って言われている本から手に取れば、まちがいないと思いますね。

今ってSNSとかでいろんな情報を摂取している気にはなりますけど、それって自分に近いアンテナだけで得ているものなので。たとえば目上の人に本を薦められて読むと、意外におもしろかったりします。そんな自分の視野を広げる作業も絶対、必要です。もし薦められた本が最後までおもしろくなければ、その人の悪口をいっぱい言うでしょうけど。私なら(笑)。



ビンの仕事も増えているが、ふだんはお笑い芸人「アマツ」として活動。左は相方の村上さん。